いなほ

令和５年１０月３０日
令和５年度学校だより NO.28⑥
加古川市立平荘小学校

狂言学習（６年生）≪NO.１≫

１０月２４日（火）は、６年生の狂言学習の第２回目の山口先生によるお稽古の日でした。前回は読み合わせでしたが、今回からは動きが加わります。登場人物の心情をよく理解しながら役を演じることが要求されます。１０月２４日は、その第一歩です。

『猿唄』の稽古をしました

ポイントは、姿勢を正して（背中を丸めない）、胸骨を開きましょう。お腹に力が入ったよく通る声で、遠くまで声を届けましょう。
「・・めんめんに」きっちり音を切りましょう。最後の音をきっちり切るためには腹筋を使いましょう。

「・・けーれー」きちんと発音できるようにしましょう。「Ke-Re-」母音を意識して声を出しましょう。
※一つ一つの音を大切に、大事に発音するように意識しましょう。

『附子』より

一音一音大切に発声する。遠くを意識して声を出すこと。

≪基本の姿勢≫

４本の指を揃えて腰に手をそえる。

山伏は、威厳をもって振る舞うように。

・“おじぎ” は、手を膝ぐらいまでスライドさせる。
・向きをかえる時は、観客に背中を見せない。観ている人たちを大切にする。
・長ゼリフは、正面を向く。
・『あのもの』を強調する。桶に向かって正対する。手を付ける。
・「なんじらにいいつくるは『るす』。これは『ぶす』じゃほどに・・」『るす』と『ぶす』をはっきりと言う。
・主人が出かけて、うれしいうれしいという気持ちを表現する（太郎冠者・次郎冠者）。

・しっかり言葉を発して、最後の音が大事。口の開け閉めが大事。
・最後の音を、きちんと腹筋を使って、きちんと言う。止める音を頑張る。
・間を取ること
・人に伝えようとすることが大事。
・『附子』の最初に、『附子』がどんな感じかわかるようにする。

「そりゃのけ　そりゃのけ」「何とした　何とした」
≪きちんと間を取る≫

舞台上では、観る人の視線を一身に集めている。ものすごく観られている。指先までしっかりそろえるようにする。鑑賞に堪える。自分の帰ると、観る人の興味は半減する。
子どもたちには、観てもらった時の気持ちよさを舞台上で味わってほしい。

初めての立ち稽古です。山口先生は、一人一人にじっくりと時間をとり、動き方や登場人物の心情・おかれている状況等、丁寧に教えてくださいました。

室町時代の砂糖は、どのようなものか？めったに手に入らない代物。黒うどんみりとした甘いもの（水あめのようなイメージで）
太郎冠者や次郎冠者にとっては、『附子』は恐ろしいもの。その心情を表現する。恐ろしいものが美味しいものだとわかった時に、喜びが爆発する。その気持ちを演技にのせていく。
※うそごとを表現しているから、オーバーなアクションになるように！